

開催結果概要

会議名	令和6年度 守山市スポーツ推進計画策定協議会
開催日時	令和7年3月24日(月) 午後7時から午後9時00分まで
開催場所	守山市役所3階 31・32会議室
出席者氏名	【委員】 大友智会長、辻本長一副会長、鈴川一宏委員（リモート）、森貴尉委員、西澤功雄委員、杉江尋幸委員、福井康裕委員、下宇宿勲委員、西村秀樹委員、北脇辰郎委員、中川郁男委員、藤本和子委員、村田和哉委員 【市事務局】 総合政策部 森口次長 スポーツ振興課 野洲課長、灘野係長、布施指導主事、西田主任
欠席委員氏名	大平雅子委員
傍聴人数	0人
会議次第	1 開会 2 会長および副会長の選任 3 会長挨拶 4 議事 (1) 第3期守山市スポーツ推進計画の進捗状況について ①第3期守山市スポーツ推進計画の概要（計画期間：令和4～8年度） ②取組の進捗状況 ③計画3か年の振り返り （参考）わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 に係る事業 (2) 令和7年度取組について ※詳細は添付のとおり (3) 市民意識調査について (4) 全体をとおして 5 閉会



発言者	主な意見・内容
委員	(1) 第3期守山市スポーツ推進計画の進捗状況について 今年計画の中間年であることから振り返りの年になります。残りの計画2か年に向けて、これまで実施してきた事業が効果的かどうか、引き続き実施すべきか、あるいは変えていく方がいいかなどの精査が必要となってきます。 また、今計画だけでなく次期計画に向けて市民が参加したいイベントやスポーツ実施率を上げたい年齢層が参加できるような仕掛けの展開や情報取得が重要となります。
委員	第3期計画が始まり3年経過しましたが、計画目標値がどのように推移したか分かる目安が必要と考えます。
事務局	昨年度の協議会の中でも検討意見としてあがっており、事務局としても指標となるデータは必要と考えています。推移の確認、次期計画のデータ収集として市民意識調査の実施を検討しており、後ほどの議題で委員のみなさまに諮りたいと思います。
委員	外向けイベントは活発に行われており、市の活性化にとっていいことだが、一方で、市民向けイベントは市人口の5%から10%の参加となっているので、市民の参加率を上げるための取組を検討してください。 また、国スポ障スポを契機に、市民全域でスポーツの担い手が生まれる・育つ取組があれば良いと考えます。
委員	仕事柄、いろんな地域に出向いたり、情報発信する中で、守山市は様々な取り組みがなされていると言われるし、感じている。すごくいいことだと思うが、今回取られたデータが高いのかが分からない。他地域との比較が必要ではないか。比較し、高ければ、スポーツによるまちの活性化（スポーツが盛んなまち）として特色をアピールできると思う。
事務局	現在データは持ち合わせていませんが、次の会議の場では、施設の利用状況やスポーツイベントの参加状況など他市と比較できるものを報告させていただきます。

委員	他と比較する対象がなければ、この計画の進捗状況をみて、良かった点、改善すべき点を洗い出す方法もあります。まったく同じ条件はなかなかないと思うので、比較できる箇所があれば、市の取組に意味を持たせられると思います。
委員	ユニスポ守山の事業を文体イベントカレンダーにて事前周知・情報発信することで、イベント参加率が上昇しました。健常の方、親子での参加など、たくさんの方が参加されたことは、イベント運営側にとってうれしく、自信にもなりました。協会発足から10年経ち、スポーツ普及・認知が上がったことは喜ばしいことです。 ただ、うれしい点ばかりではなく、障害者スポーツに携わる役員・担い手が変わらない点は課題と感じています。地域の指導者の育成に力を入れていますが、厳しい状況です。 また、昨年もお伝えしていましたが、障害を持つものにとって、スポーツ施設までの交通手段があまりない点は課題としてあります。市のオンデマンドタクシーはありますが、その存在をまだまだ知らない方がたくさんおられます。
委員	市民体育館でスポーツされる方が増えてきた、さらに健常の方や親子での参加も増えてきたことは非常に素晴らしいことだと思います。ふれあい出前講座やユニバーサルスポーツ普及事業などでゴールボールやボッチャをなされているので、子どもも学習しているので、さらに普及できるよう仕掛けを考えられればいいと思います。 また、課題である交通手段については、公共バスの通らない線を埋めるオンデマンドタクシーが展開されていることは素晴らしいと思います。これがもっと周知されればと考えます。
委員	スポーツ協会の会員には27種目あり、ニュースポーツ（スケボーやスポーツ拳法、クレ射撃など）の珍しい団体もあり、たくさんの団体が登録されていて、横のつながり・仲間意識が強いと思います。協会登録団体を見ても、運営側は年配の方が確かに多く、リーダー格になる若手を育てていかなければならないと感じているところです。 イベント運営は民間・行政が協力し合っているところですが、ただ、運営人員の不足もありますので、有償ボランティアも活用しながら進めることも検討しなければなりません。現在展開のイベントは、歴史あるイベントに加え、新たなイベントも増えている状況ですので、イベントの整理が今後の課題と捉えています。

委員	整理という点でいえば、イベントの経費が高騰してきているので、市主催の参加料等の引き上げを含めて設定し直すことも検討すべき点だと思います。 また、部活動の地域移行については、担い手の確保という点からどのようにかく地域のリーダーに委ねていくのか、それをどうやって支えていくのスポーツ協会として悩んでいるところです。 子どもたちの様子を見てみると、女子の部活動離れが目立っています。年々微減しているが、部活動ではない形（民間クラブ）でスポーツをしている子どもも一定います。教員の方も働き方改革・業務改善が相まって、部活動に携わる熱が冷めているのかなと思われます。もちろん、その中でも熱心に携わっている教員も少なくないです。守山市における部活の地域連携については、比較的熱心に教員が取り組んできたこともあり、あまり議論されてこなかった状況です。ただ、ひとたび崩れるとそうもいかないの、来年度から3か年のビジョンで関係先に聞き取り等を行って緩やかに地域連携に移行しようと思っています。地域連携では、柔道においては10年前から取組がなされてきたこともあり、守山中学校を中心にいい形ができていますが、種目によって状況は変わるので、スポーツ協会さんにご意見をいただきながら、進めてまいりたいと思います。
委員	部活動の地域移行についてですが、先催例がいくつかあります。ニュースでもあったかと思いますが、部活動の顧問を強制するのではなく自主的に参加してもらい、その教師に時間給として支払う取組もあるそうです。また、競技毎に異なるということですが、ある地域では、陸上部が公園内でトレーニングをする際、年配の市民のランナーから助言をもらい地域と上手く関係性を保ちながら部活動を進めている例もあるそうです。いくつか事例を集めて、守山市にフィットさせ、守山市なりの地域移行を行えばいいと思います。
委員	部活動の地域移行については、スポーツ庁も至急の案件とされています。地域の団体と連携を図り、守山市に合った地域移行がなされればと思います。
委員	(2) 令和7年度取組について 令和7年度取組ですが、計画目標の柱3にあるスポーツを支える人材の育成について、具体的な取組が必要と考えます。漠然と取り組むのではなく、担い手が現状どれくらいいて、そこからどれくらい伸ばそうとするのか、地道に増

	やしていく取組を考える必要があると思います。
事務局	スポーツの担い手ですが、例えばびわ湖マラソンであれば、イベント運営としてボランティアに参加された方には記念のスタッフジャンパーの支給や市内イベントであれば、協力業者のお菓子を配布するなどインセンティブを付与しています。日当として支給することが難しい状況ですので、このような形で対応しているところです。また、地域総合型スポーツクラブなどの運営に携わっていただく担い手の確保は、なかなか上手くいっていない状況で、委員が日々苦慮されているのは存じ上げています。何かいい案があればお聞かせ願いたいと思います。
委員	スポーツに限らず、どの団体においても担い手確保に苦労されている状況です。その中で共通している課題は、若者をどうやって参画させるかだと思います。単なるボランティア参加ではなく、企画段階から参画させること、一緒に盛り上げられるような仕組みづくりが重要だと思います。無償で、指示されるだけのスタッフはおもしろくなくて当然です。若者におもしろいと思わせることが必要で、参画したことで充実感を得られるような企画を考えなければならないと思います。次期担い手になる若者の思考に目を向けなければ、組織運営・イベント運営は続かないと思います。
委員	滋賀県の総合型地域スポーツクラブの事業として、大学生と協力して企画運営を行うプログラムが展開されています。情報を得て、守山市版を展開できればいいのではないかと思います。
委員	スポーツを支えるためには幼いころからスポーツを行ったり、または見たりして親しむ経験が重要だと思います。その中で、次年度の取組として国スポ障スポ大会の学校観戦とありますが、これは素晴らしい取組だと感じています。具体的な内容を教えていただけますか。
事務局	各学校（保育園・こども園・小学校・中学校）に参加希望をとって、調整を図る予定でございます。各校によって参加できる状況かどうか様々だと思いますので、参加学年等は学校側側面に委ねる予定です。参加希望者があればどの学年でも参加できる可能性はございます。

委員	第一線のスポーツを生で観戦できる絶好の機会ですので、是非とも多くの子どもたちが肌で感じられるように工夫していただきたいです。
委員	市教育委員会としても、できる限り多くの子どもたちが観戦できるような個人単位で参加できるような仕組みをつくればと試行しているところです。 また、担い手対策ですが、先ほども部活動の地域移行の議題で触れましたが、柔道のような OB・OG による運営参加のような仕組みが作れるよう取り組み、働きかけが必要と考えます。
委員	地域のイベントで地元大学生と一緒に企画することがあるが、バイトが入ったなど急遽参加できないことがある。有償ボランティアの導入の検討と先ほどの議題の中でありましたが、イベント参加費で賄えるのであれば、検討することも一つの方法と考えます。
委員	大学の講義サポートで学生に有償で協力してもらうことがあります。金銭が伴えば、彼らは責任を持ってまじめに取り組んでくれます。 (3) 市民意識調査について 意見無し
委員	(4) 全体をとおして 地域のスポーツ等取組情報の発信力が不足していることから、発信媒体（HP）を立ち上げ、施設予約システムの確立など DX 推進を図り、利用者の利便性向上に努めた結果、一定の成果を感じています。まだまだ DX は浸透すると思います。 また、スポーツの裾野を広げるため、競技団体の協力を得て、中学校の部活動にない競技の教室を運営（弓道部）しています。
委員	スポーツは健康にとって重要と考えます。地域の健康を各家庭から支える取組を健康推進員は展開しております。これからもサロン等を通して、市民の健康

委員	増進に携われればと思います。 スポーツによっては年齢性別を問わない競技もあり、幅広い層とともに競技することで得られる経験から、スポーツの楽しさに触れることもできるので、今後のイベント等運営に取り入れていただきたいと思います。
委員	もりやまエコパーク指定管理として情報発信・共有が十分できていない状況です。スポーツ振興課としっかり連携を図る必要があると考えています。また、中学校の部活動に協力や、学校の水泳授業の受け入れを少しずつ行っているところです。子どもたちがうまく施設を利用できる環境を整えてまいります。